

緑化だより

No.62 平成23年7月号



コウホネ 平成23年6月20日撮影

○きのこの味“苦い味のきのこ(1)”

○サクラのあれこれ

○野鳥の世界

○季節の花

○研修会紹介

○お知らせ・ご案内

生き物いっぱい 自然いっぱい

広島県緑化センター・広島県立広島緑化植物公園

〒732-0036 広島市東区福田町 166-2

TEL 082-899-2811 FAX 082-899-2843

URL <http://ryokka-c.jp> E-mail hiroshima@ryokka-c.jp

きのこの味

苦い味のきのこ (1) ニガイグチモドキ(苦猪口擬)

きのこの名前を判別する時、その判断材料の一つになるものとして“味”があります。生のきのこを少しだけかじってみるのです。味が無いものが多いのですが、中には辛いとか苦いとか酸っぱいものもあります。

今月は苦い味のきのこをとりあげます。

ニガイグチモドキは梅雨時期にアカマツ・コナラ林に発生する中～大型のきのこです。

傘はオリーブ褐色、ややビロード状で粘性はありません。

傘の裏はひだ状ではなく管孔状で小さい穴がたくさん開いていて紫色です。

このきのこの肉を少しだけかじると大変苦いのです。

類似種のニガイグチは、柄の全面に濃褐色の網目模様がある点でニガイグチモドキ(柄の頂部にだけ網目模様があります)と異なり、まれにしか見られません。

どちらの種類も苦くて食用には向きません。

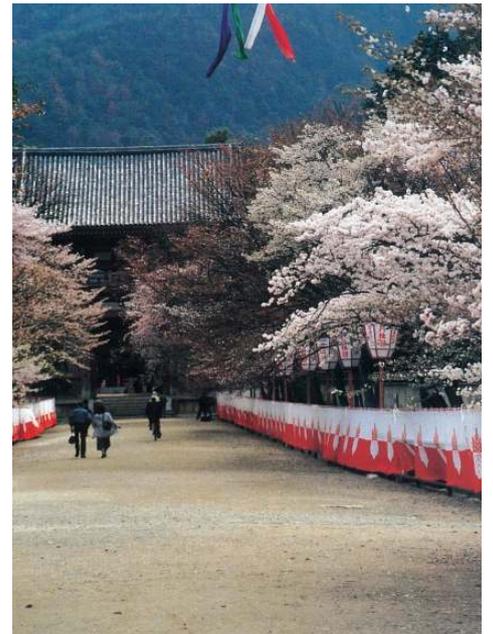


ニガイグチモドキ

サクラのあれこれ(4)

豊臣秀吉は派手を好み、文禄三年(1594年)に、文武百官5千人を伴って吉野で花見を開きました。その4年後の慶長3年(1598年)3月に開かれた醍醐寺の宴はそれに輪をかけたものでした。真言宗醍醐派の総本山である醍醐寺で、荒廃していた堂塔伽藍を修復再建し、花見を演出するために、河内・近江などから700本のサクラを集め植えました。諸大名も競って茶屋を設けて雰囲気盛り上げました。北政所、淀君をはじめ女房衆千数百人を引き連れての大イベントだったようです。花見でこれほどの大仕掛けを他に知りません。大河ドラマ「江」にもこのあたりのことが描かれると思います。

石庭で有名な龍安寺にも秀吉の花見の記録が残っています。幽玄とわび、さびを感じる現在の石庭に改めたのは江戸時代のようにです。



醍醐寺参道の桜

当時のサクラはヤマザクラか主ですが、今日はほとんどがソメイヨシノです。

この品種は病虫害に弱く、4月～10月にかけて、イラガなどの毛虫、アブラムシ、カイガラムシがつきやすく、幹からヤニを出すコスカシバも活躍を始めます。

病気はテングス病や癌腫病と共にウドンコ病や穿孔病なども発生します。

よく観察し手当てをしましょう。アリが上り降りしていたらアブラムシかカイガラムシを疑って下さい。

お礼肥が済んでいないようでしたら、一日も早く施してください。葉が元気に育てば、来年の花は見事になります。木は手当てをすれば正直に反応してくれます。よい花を咲かせるためには、花のない時期にかかわりをもつことが大切です。

野鳥の世界

ホトギス

遅い八重桜の花が終わって、常緑樹の古葉が散り始めると、日差しも明るくなり、いかにも初夏の気配がしてきます。その風情をいっそう際立たせるのがホトギスの声です。

遠くの山の中から響く独特の鳴き声は、万葉の昔から聞き分けられて、日本人の心情を育ててきたようです。

農耕を中心にした生活の中でも、季節を告げる鳥として広く親しまれてきました。

ホトギスは、菜種梅雨とよばれる初夏の夜も、飛びながら鳴く習性があり、田園の中で聞く声は、聞く人の心を引きつける響きがあります。

鳴き声やさえずりを、似た言葉に置き換えて聞く「聞きなし」にも色々あり、有名な「東京特許許可局」がありますが、広島北部では広島弁で『トツァン(父親)コケたか』とも聞きなされて、農村の生活をよく感じさせてくれます。

詩歌文芸の世界でもウグイスと並びよく登場して、その時々の名詞(呼び名)も色々作られました。万葉集では「霍公鳥」が使われ、新古今集では「時鳥」や「郭公」の字を当て、ホトギスと読ませていたようですが「郭公」は「カッコウ・カッコウ・カッコウ」と鳴く、同じ科の鳥がいるので、その意味は不明のままのようです。

ホトギスがなぜ「時鳥」であるのかは、初夏の季節を迎え若葉が伸び、うの花や山吹の花が咲く頃になると、特徴のある鳴き声を聞かせてくれ、心待ちにしている時間があるからではないでしょうか？

緑化センターにも、カツラの葉が茂って薫り立つ素晴らしい『時』に渡ってくる、「季節感」にぴったりの鳥だと思います。



周囲を窺うホトギス

季節の花

7月園内で見られる花を紹介します。

例年に比べ今年は全体に開花が遅れているようですが、6月下旬から色づき始めたアジサイ、ヤマアジサイが見頃を迎えます。他にはナツツバキ、コクチナシ、クチナシ、ムクゲ、ノリウツギ、クサギ、サルスベリ、ザクロ、ヤマハギ、ノウゼンカズラ、ハナヅノツクバネウツギ、エンジュ、ネムノキ、キンシバイ、アカメガシワ、ケンポナシ、キガンピ、リョウブ、シマトネリコ、キョウチクトウ、野草では、ネジバナ、オカトラノオなどが見られます。



ナツツバキ



サルスベリ

研修会紹介

- 7月9日(土) 『7月の自然探勝』 10:00～12:00 管理事務所前 集合
初夏の樹木や花を観察しましょう。
講師:環境省稀少野生動植物
推進委員 吉野 由紀夫
- 7月18日(月) 『夏のきのこ教室』 10:00～14:00 第3駐車場 集合
採取したきのこの食毒判定をします。きのこ採集用のカゴ持参のこと。
講師:きのこアドバイザー 川上 嘉章
- 7月24日(日) 『夏休み昆虫教室』 10:00～12:00 学習室 集合
夏の昆虫を採集・観察しよう! 要予約(先着40名)
講師:技術士 亀山 剛
- 7月31日(日) 『天気予報と気象』 10:00～12:00 学習室集合
NHKの天気予報でおなじみの気象予報士による、
天気図の読み方と気象おもしろ話
講師: 気象予報士 勝丸 恭子

♪☆お知らせ・ご案内☆♪

- 季節のきのこ (常設展示)
レストハウスにて、その季節に見られるきのこの実物展示をしています。
 - 七宝焼同好会作品展 ~7月31日(日)
レストハウスにて、趣味の七宝焼の作品を展示しています。
 - 春の緑化写真コンクール作品展 7月1日(金)～7月31日(日)
平成23年度春の写真コンクール入賞作品と
応募者の作品(1人につき1点)を展示します。
- ◎ 時間延長のお知らせ
7月の土・日曜日・祝日は閉園時間を午後5時まで延長します。
月曜日は休園とします。7月18日(海の日・月曜日)は開園します。
7月19日(火曜日)が休園日となります。

ジョウゴゴケの仲間



表紙：コウホネ(河骨) スイレン科コウホネ属

日本各地の地沼に生える。肥大した根茎が沼中をはい、その白骨のような根茎が和名の由来となった。

根茎にアルカロイドを含み、漢方では川骨(せんこつ)と言い強壯、止血、健胃、月経不順に用いる。